

<b>学校教育目標</b>	知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成
<b>《本年度の重点目標》</b>	
<b>《重点目標1》</b>	日々の学習の「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着させ、全国学力・学習状況調査で昨年度以上の平均点を目標とする。英語教育リーディングスクールの実践報告会を成功させる。
<b>《重点目標2》</b>	組織的な体力アップに努め、全国体力・運動能力・運動習慣調査において男女とも全国平均以上の平均点を目標とする。「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着させる。
<b>《重点目標3》</b>	「北九州子どもつながりプログラム」の活用や道徳科の学習の充実を通して、自尊感情を高めるとともに将来の夢をもつことができるようにする。

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
  - ①学力向上に関する取組 ②体力向上に関する取組 ③心の育ちに関する取組
  - ④いじめ問題解決に関する取組 ⑤特別支援教育推進に関する取組 ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	<p>【授業改善①】 ○「目標が示されていたり、振り返る活動をよく行っていたか。」&lt;全国学習状況調査-児童質問紙&gt;について、肯定的な回答をした児童の割合の増加</p> <p>【授業改善②】 ○「話し合い活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができたか。」&lt;児童質問紙&gt;について、肯定的な回答をした児童の割合の増加</p> <p>【授業改善③】 ○「授業改善評価シートを活用するなど、授業改善に向けて取り組めたか。」&lt;学校アンケート&gt;について、肯定的な回答をした教員の割合の増加</p> <p>【補充学習】 ○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。」&lt;児童質問紙&gt;について、肯定的な回答をした児童の割合の増加</p> <p>【家庭学習】 ○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」&lt;児童質問紙&gt;について、肯定的な回答をした児童の割合の増加</p> <p>【特色ある取組】 ○「研修を通して英語教育リーディングスクールを理解し、推進に努めたか。」&lt;学校アンケート&gt;について、肯定的な回答をした教員の割合の増加</p>	<p>【授業改善①】【授業改善②】【授業改善③】 ○各学年にカードを配布し、単元単位の授業の中で、めあてを立てる時間と学習をまとめる時間、終末の3分間の振り返りの時間を確保する。 ○学力向上推進教員による指導を中心に、「分かる授業」の5つのポイントの定着を図る。 ○管理職が毎日校内巡視を行い、実施状況を確認するとともに、教員に対する指導助言を行う。 ○教育センターの「授業づくり動画」を活用し、全校でアクティブラーニングについて共通理解する。 ○全校共通の学習展開を周知し、授業の中に「話し合い活動」を位置付ける。 ○一単位時間の授業の中で、めあてを立てる時間と学習をまとめる時間を確保する。 ○授業研究では必ず事前研修を行うとともに、「授業改善評価シート」を活用し、授業改善に努める。 ○学力向上推進委員会を中心に、補充学習、家庭学習の充実、単元末テストの活用など、学力向上に向けた取り組みを推進するとともに、全職員で共通理解する場を設定する。 【補充学習】 ○学力向上のための特設時間(5校時前に15分間のひびきのタイム)を設定し、実施する。 ○「単元末テスト」等を活用し、児童一人一人のつまずきを把握するとともに、その課題解決を図ることができるよう「ひびきのタイム」の内容を工夫する。 ○低学年はMIMIに、3～6年生は学力定着サポートシステムに取り組みで、児童の実態を把握し、個に応じた効果的な指導をする。 ○毎学年ごとに課題を決め、火曜日の朝自習に全校で「ひまわり」の音読に取り組む。木曜日の朝自習は全校で読書を行い、言語力の向上を目指す。 【家庭学習】 ○学力向上推進委員会において、家庭学習の内容・量について共通理解(「家庭学習のすすめ」参照)するとともに、学校だけでなく家庭に周知する。 ○中・高学年では、学校独自の自学ノート(1日1ページ目安)の取り組みを進める。自学ノートには家庭学習の計画を書き入れ、帰りの会を活用して計画を立てるようにする。 【特色ある取組】 ○教育委員会と連携し、英語教育リーディングスクール推進委員会を設置して、6月の実践報告会を成功させる。また、その後の授業も充実させる。 ○全職員で外国語体験、外国語活動や英語科の授業イメージをもつとともに、授業の進め方や指導・支援の在り方について共通理解する。</p>	A	<p>【授業改善①】【授業改善②】【授業改善③】 ○「目標が示されていたり、振り返る活動をよく行っていたか。」&lt;児童質問紙&gt;では、いずれも肯定的な児童の割合が高い数値を示しており、ともに当初の目標を達成できた。 ○全国学力テストでは、いずれの教科も全国平均を大幅に上回っており、昨年度の正答率よりもさらに高い結果であった。目標を十分に達成できた。 ○主題研究として、互見授業や協議会を全学年で積極的に実施することができた。 ◆若手教員や中堅教員の更なる授業力の向上が課題である。 ◆「授業改善評価シート」を活用して、授業改善に向けて取り組めたか。」&lt;学校アンケート&gt;で肯定的な回答をした教員の割合は、目標を若干下回った。日常的に活用できる方法を工夫する必要がある。</p> <p>【補充学習】 ○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。」&lt;児童質問紙&gt;では、ほぼ全員が肯定的な回答をしており、目標を達成できた。 ◆朝自習の内容の統一に取り組んだが、音読・暗唱については徹底できていない学級があり、組織的内容の工夫が必要である。</p> <p>【家庭学習】 ○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」&lt;児童質問紙&gt;について、肯定的な回答をした児童が1・2学期よりも増加したが、目標を若干下回った。 ◆「自学ノート」について若年研修の中で意見が出されるなど、教員の意識は高まっているが、まだ十分な取組とは言えない。</p> <p>【特色ある取組】 ○学校アンケートで、リーディングスクールの理解と推進について、全教員が肯定的な回答をしており、目標を達成することができた。 ○6月の実践報告会では全学年が公開授業をし、100名以上の参観者を得て、リーディングスクールとして大きな成果を挙げることができた。 ◆成果と課題を「実践報告書」にまとめ、今後の研究につなぐ必要がある。</p>
体力向上に関する取組	<p>【授業改善】 ○「ふだんの体育の授業では、授業のはじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていますか。」&lt;学校アンケート独自&gt;について、肯定的な回答をした児童の増加</p> <p>【運動習慣】 ○「一校一取組を決め、学期に1回以上全校で取り組む」</p>	<p>【授業改善】 ○体育の授業における「めあて・ねらい」の大切さを共通理解する場(研修会)を設けるとともに、(特に運動場において)掲示することができるボードを学校で準備する。 ○全校で、体育科学習開始時に「ジャンプアップ運動」等を取り入れ、体力アップに努める。</p> <p>【運動習慣】 ○新体力テストを全学年・全種目、適切に実施するための校内研修を行う。6月以降に実施する。 ○新体力テストの結果を分析し、児童の実態に応じた一校一取組を計画する。具体的には、各学期に運動週間を設け、運動への興味・関心を高め、体力向上の取り組みを行う。(なわとび週間、持久走週間)</p>	B	<p>【授業改善】 ○&lt;児童質問紙&gt;「ふだんの体育の授業では、授業のはじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていますか。」で、ほぼ全員が肯定的な回答をしており、目標を達成できた。 ◆運動場用のボードがなく、めあてカードの提示ができていないという声を受け、2学期末に2台の運動場用ボードを購入した。これからの積極的な活用が課題である。</p> <p>【運動習慣】 ○新体力テストについては、時期や体育部中心の運営方法について、特に問題ないという意見が多かった。 ◆一校一取組については、「マラン」を学級単位での自主取組とし、3学期に全校で短縄の部・大縄の部の2種目の「なわとび」をする計画に差し替えて実施した。</p>
心の育ちに関する取組	<p>【授業改善①(道徳)】 ○&lt;児童質問紙&gt;「将来の夢や目標をもっているか。」について、肯定的な回答をした児童の増加</p> <p>【授業改善②(特別活動)】 ○&lt;児童質問紙&gt;「自分には、よいところがあると思うか。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 ○&lt;保護者アンケート&gt;「お子さんは、地域の方々に気持ちのよいあいさつや言葉づかいをしていますか。」について、肯定的な回答をした保護者の割合の増加</p>	<p>【授業改善①(道徳)】 ○道徳の時間や学級活動の時間を通じて、将来の夢や目標に触れる機会を設定する。 ○生活科や総合的な学習の時間において、大学との交流、幼稚園との交流、市民センター(地域)との交流を通して、児童が将来の姿をもつことができるようにする。 【授業改善②(特別活動)】 ○「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に行い、児童同士の人間関係を深める。学級や学校への所風間を高め、有用感を持たせるために、係活動や委員会活動を充実させる。 ○「校内いじめ問題対策委員会」を設け、定期的ないじめアンケートで実態を把握し、SCJによるカウンセリングなどを通して児童の心のケアに努める。 ○児童委員会を中心に「あいさつ運動」を行う。また、学期に1回「あいさつ名人コンクール」を行う。</p>	B	<p>【授業改善①(道徳)】 ○6年生の職業ボランティアによる「夢授業」等を通して将来について考える機会が増え、「将来の夢や目標をもっているか。」について、肯定的な回答をした児童の割合が2学期より大幅に増加した。目標値を達成できた。 ◆6年生が夢や希望をもって卒業できるようにしたい。</p> <p>【授業改善②(特別活動)】 ○&lt;児童質問紙&gt;「自分には、よいところがあると思うか。」で、6年生のほぼ全員が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 ○アンケートや保護者の訴えを通して、いじめやその兆候を把握・対応し、解消することができた。 ◆SCJによる5年生のカウンセリングで、人間関係で悩んでいる児童が分り、得た情報を生徒指導や児童理解に生かすよう担任に指導した。 ○「あいさつ名人コンクール」は回数を重ねることに充実している。毎学期、実施することができた。</p>
業務改善に関する取組		<p>○3年理科、4年音楽、5年外国語活動、6年家庭科の専科指導を実施する。 ○平日20時以降の勤務の禁止、水曜日の定時退校日の前倒しを徹底する。 ○定期的に、ワークライフバランスの大切さについての研修を行う。</p>	B	<p>○4つの学年での専科指導、教務主任の少人数授業で、授業の平準化を図った。専科指導は、特に高学年の担任に好評である。 ○定時退校日の周知と呼びかけを継続した。在校時間の削減については、一定の成果を上げることができた。 ◆ワークライフバランスの維持と(特に若年教員の教材研究の時間の確保など)授業の質の向上とのバランスが今後の課題であった。</p>